社会的排除や差別、抑圧と社会の仕組みとの関係を考えたい方に

個人的なことは社会的なこと

社会学というツールを通して、個人的な問題として扱われがちな出来事が起こる過程を辿っていくと、実はその背景に私たちがつくり上げてしまっている社会の仕組みが深く関わっていることがわかります。さて、そこでいう「社会」とは何で、個人の問題にどう関わってしまっているのでしょうか。

藤原良太 助教

●出張講義分野
社会学、障害学

●研究分野のキーワード
社会的排除／包摂、インクルーシブ教育、障害

●専門分野
社会学、障害学

大学ではこんなことを研究しています

特定の人たちをカテゴライズしたり、その人たちを特定の場所や場面から排除したりすることを社会のシステムによる選択として分析します。とくに教育の場に焦点を当てて、「障害児・者」とされる人たちに対する排除／包摂が起こるプロセスを観察し、記述します。それを通し、ありがちな排除とは異なる選択肢を描き出します。

先生からメッセージ

大学で学べることは、いわゆる「現場」で学ぶことに比べれば僅かかもしれません。ですが、現場から離れているからこそ学べることもあります。自分が「わかっていること」だけではなく、自分が「何をわかっていないのか」がわかれば、現場特有の困難に向き合うのにどんな準備が必要なのかもわかります。タフな状況も少し距離を取って観察してみると、陥りがちなよくないパターンと、たまに例外的にあるよいパターンを発見することもあります。後者は打開のヒントです。自分と自分以外との関係を冷徹に観察できる視点と知識を学びましょう。

略歴　法政大学大学院社会学研究科修士課程修了。修士（社会学）。
自治体等での勤務を経て、2023年4月より東北公益文科大学実習助手。2024年4月より現職。
立命館大学生存学研究所客員研究員を現任。社会福祉士の国家資格を有する。